



2022年 1月 17日
第114号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

1月15日号

2022年がスタートした。発生から間もなく2年が経とうとする新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種が進み、目に見えて人の往来が活発になるとともに、年末年始輸送は対前前年比の約7割まで乗車率が回復してきている。

JR東日本にとっても大きな変革の年となる。3月には「変革2027における現業機関における柔軟な働き方」として新しい職場体系が発足する。これによって駅と乗務員といった他系統との融合、作業ダイヤにとらわれない働き方という今までの仕事の仕組みが大きく変わる。現場第一線で業務を担う我々にとっては、今まで以上に一人ひとりの働き度が増す施策となっている。安全問題・労働時間管理の問題・社員管理の問題など様々な課題が山積する中でスタートとなる。「社員の発意発想」と言いながらも、一方で問題が発生したら起こした社員に全ての責任を転嫁させられることも危惧されている。私たちは施策に反対するのではなく、施策を担う以上は「安全・健康・ゆとり・働きがい」を保つていかなければならない。

この間私たちは労働組合として、職場で働く仲間の声に耳を傾け組合員との議論を重ねてより良い施策にするために団体交渉を行ってきた。困っている仲間の手を差し伸べて、ともに悩み議論することで働きがいの持てる職場をつくり出してきた。それはこれからも変わることのない労働組合の使命である。黙って泣き寝入りしていると、人としての尊厳自体が失われてしまいかねない。今こそ労働組合に結集し、労働者としての権利を堂々と主張し人間らしい生活を送り、未来ある2022年をともにつくり出していこう！（J・K）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。